

内 容

1. 災害 はなぜおきるのか.....	1
2. 災害 はなぜこわいか.....	3
3. どこで、なにがおきるのか.....	5
4. 住 んでいるところはどんなところ.....	7
5. なにをしらべたらよいの.....	9
6. どこで、なにをしらべるの.....	11
7. マイマップ(じぶんのちず)をつくろう.....	13
8. マイマップ(じぶんのちず)のつくり方.....	15
9. あぶないところ、ものはなに.....	17
10. ひなんじょはどこにあるの.....	19
11. やくにたちそうなものはなに いつものそなえ.....	21
12. じぶんの 地図 をそだててみよう.....	23
13. さいがいがあったら、 正 しく 行動 する.....	25
14. だいじょうぶは、だいじょうぶでない.....	27
15. たすけよう、そのまえにたすかろう.....	29

1. 災害はなぜおきるのか

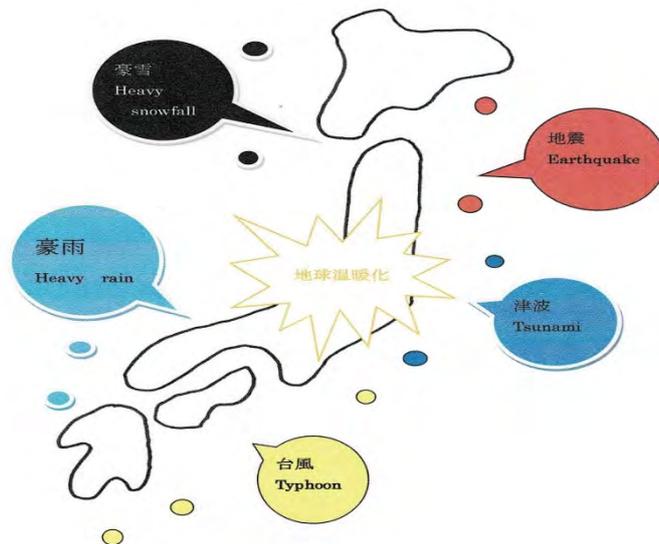
地球は、まだまだ元気な星です。

そのために私たちが住んでいる地表は、常に変化しています。

その日本列島は、ときどき、はげしい自然の現象がおきます。

火山の噴火、地震、大雨、台風などがあります。

そのために、さまざまな困ったことも起きます。



日本列島は自然災害の宝庫、いつでもどこでも起きています



植物名：アサ
(アサ科アサ属、1年草
中央アジア原産、人類が初めて栽培して10,000年)

花言葉：運命

(解説)

日本列島は、アジアの東南部に位置していることから、四季があり世界的にも雨量が多いモンスーン気候帯にあるために、比較的温暖で自然が豊かで景観も素晴らしい国土です。

また、地球の表面はいくつかのプレートというジグソーパズルのような岩盤からなっていて、そのプレートは常に移動し続けています。そのプレートが、列島には4つも交差していて、押し合いへし合いしているところにあるという、まさに変動列島に住んでいます。

そのような中に、自然災害の素因として、地形とか地質があります。そして、誘因としては、台風や地震といった気象現象があります。そのような大きな地表の変化は、私たちの住んでいるところを襲って被害や多くの犠牲といった損害を与えます。しかし、自然は恐ろしい、はむかうことができないものではありますが、同時に多くの恩恵にあずかっていて生活ができているというありがたい存在でもあります。

2. 災害はなぜこわいか

地震は大きくゆれます。どこでもゆれます。

海の方からは、おおきな津波がおしよせることもあります。

そして、建物や道路などがこわれて、人がなくなったりします。

山では、がけくずれや土石流が発生して、ふもとをおそいます。

多くの自然災害は急に、まえばれなくやってきます。

突発、焦る、驚いて慌てふためく。遠慮のない暴れん坊



植物名：トリカブト

(キンポウゲ科トリカブト属、美しい花と猛毒の根が特徴、もともとは薬草)

花言葉：要注意

(解説)

自然災害は、多くの場合に前ぶれなく急に、準備する間もなく発生します。したがって、防災情報をよく聞いて、早めの避難が大事です。最近の気象状況は変化してきていて、異常ともいえる多量の雨が続いています。また、地震も連続して発生しており、首都直下地震や南海トラフ地震といったものが、学術的にも発生が予測されています。そして、小規模とはいえ火山噴火の兆候も報道され、規制されるエリアも発表されています。2019年5月には、大雨情報についても、より分かりやすいものになりました。

まさに気が抜けない災害列島ですが、いつ起きるかはわかりませんが、どこでなにが起きるのかはおおよそわかります。自分たちの住んでいる地域及び周辺にどのようなリスクがあるのかを知っておくことは大変重要なことです。そして、どうすれば被害を最小化できるのかを日ごろから共有しておくことは大切なことです。

3. どこで、なにがおきるのか

水害は、みるみるうちに水がふえて、流れが急になり、
がけくずれ、堤防をこわし、低い土地にひろがり、沢からは土砂が押し
込まれます。

地震によわいのは、建物の力不足や軟らかいじばんのところでは

津波がくるときいたら、すぐに近くの高いところやタワーへ避難。

いろいろな自然災害（地震や津波によるもの、豪雨、融雪など）

**（「いつ」はわからずとも、「どこで」「なにが」は事前に知ることが
できます。**



植物名：ノコギリソウ

（キク科ノコギリソウ属、葉がギザギザになっているのが特徴、細かい花が群れ、帽子状に咲く、色は多色）

花言葉：戦い

(解説)

自然現象は、急に来る破壊王、デストロイヤーのようなもので、対象物の弱みを知って破壊していくというものです。どこに何が発生するのかは、いままでの履歴が大事ですが、その他にもその履歴に倣って危険な個所を特定することができます。そして、最近被害が多いのは、人工的に開発されているようなところ、例えば造成地のようなところや新規の埋め立て地帯です。本来は、生活基盤としては不適だったところを、開発したところですから、つまり、そのようなところは災害に対して脆弱だという性質を地下や背後に潜在させているところでもあります。

地形や地質、過去の災害履歴などを無視して、経済性や利便性だけを考慮したために被害の対象になったということもできます。

今後は、そのような地域の災害リスクを情報共有して、防災情報を適切に利用して、早めの避難が大切です。しかし、避難の方法や場所は災害の種類にもよりますので、何が発生する可能性が高いのかを把握したうえでの避難方法を考えておくことが最低限必要であると思います。

4. 住んでいるところはどんなところ

わたしたちは、^{たい}平らなところに住んでいます。

そこは、もともと^{たい}平らなところだったのでしょか。

^{だいじ}大事なのは、もともと^{ちけい}どんな地形で、どうしてできたのかです。

^{さいがい}災害では、もとの^{せいかく}性格がよみがえることがあります。

^{おおあめ}大雨で、まさかここまで^{みず}水が来るとは、もとは^{おおあめ}大雨での^{こうずい}洪水の^{あそ}遊び

^ば場だったところかもしれません。

みえないものがある日、突然本性をあらわす

(いつもは足元を気にして暮らしていないが、時々その素性が明らかになることがある)



植物名：オトメユリ

(ヒメサユリ)

(ユリ科、淡桃紅色、小型の花、
葉は針型で幅はやや広い、宮
城、山形、福島、新潟で見ら
れる)

花言葉：好奇心の芽生え

(解説)

わたしたちの先人は、最初は水や食料が得られ、獣害のない安全なところに住んでいたのが、やがては平地に定住するという形態をとったといわれています。つまり、自然に活かされていることから自然を改変して利便性を求める中で、技術を介して新たな生産・生活形態を得たものと思われま

す。日本列島は山地が 6 割を超えることから、平野部を中心に人口を増やしてきました。平野部は大きな河川が最近形成した若い時代の地形です。平たんで広大なことは魅力ですが、本来は河川の氾濫域ですので、軟弱であったり、地下水が高かったり、洪水にもみまわれたりします。また、沿岸部では度々津波の被害を受けるという状況でしたが、利便性や一次産業の適地として欠かせない場になっていきました。そして、新たに土地を造成して拡大するというようなことも行ってきました。また、人口が増えると周辺の丘陵地を改変して造成をしたりして都市域を拡大してきました。つまり旧地形がわからないほどに改変したものの、元の地形や地質の性状は隠されただけで、実は潜在していて、地震や水害といった大きな外的作用が加わると、潜在していたものが覚醒して、大暴れするということになります。よく想定外とか聞いていなかったということが言われますが、災害を受ける場には、それなりの原因があるということになります。

5. なにをしらべたらよいの

す 住んでいるところは、つい最近までは、水田、丘陵地、荒地、湿地

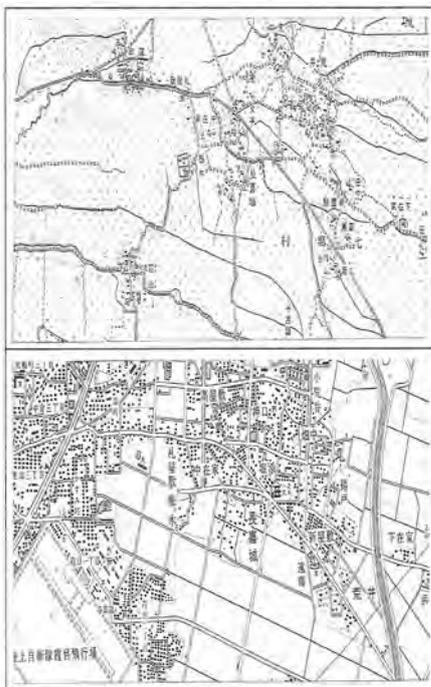
? 昔、災害があった? 活断層は?

そのあと、どのようにして平らにしたのか、埋めたのか。

かたいところか、やわらかいところか。

いつも水が出ているか、雨の時はどうか。

地形図をくらべる 1905 年(明治 38 年)と 1998 年 (平成 10 年)



温故知新、過去の経験は次世代への遺産

植物名: クローバー (マメ科シャジクソウ属)

花言葉: 私を思い出して



(解説)

日本では、ほとんどのところで、何らかの土木工事をして、住んでいるか産業の用地としています。もともと、土地の狭いところであることや、河川でできた土地のために、湿地が多かったり軟弱であったりしているところ です。一昔前までは、可能な限り水田が開かれていった、ということも土地の でき方に関係しています。そうしたもともとの平地だけでは不足した結果、 周辺の丘陵地を切ったり盛り土をして、造成していきました。一見、同じよ うに平らに見える土地でも、埋めたところと切土をしたところでは、地盤に 強弱ができます。そして昔のへこんでいたところは地下水が集まってきます。 普段はわかりませんが、大きな地震などがあると、元の地形を反映したよう な被害が現れます。切土や盛土の境界では建物が傾いたり、盛土のところの ものは倒壊したりしますし、谷埋め盛土のようなところは、地すべりが発生 するということがあります。また、がけ地やもともと地すべりであったよう な場所は、豪雨や地震などで崩壊するということがあります。また、地震な どでゆすられることで、砂地盤が力をなくしてへなへなになって、大きな建 物が傾いたり、下水管が破損したりもします。

元の地形を知るということは、災害のリスクを知ることにもなり、少なくと も想定外というようなことは起こりません。それから、旧地形図などで昔の地 名を知ること、どのようなところであったのかがわかることもありますし、 雨が降ると水たまりができるところや、何回か過去にも道路工事しているとか、 電柱が傾いているとか、大きな建物を建てる時には地下に杭を打っているとか、 ふだんのことにも注意しておくことも大事です。地域への興味や関心を持つこ とが大変に重要なことです。

6. どこで、なにをしらべるの

なにを（例、地域の歴史）しらべたいのかをはっきりさせます。

そして、^{がっこう}学校の^{せんせい}先生、^{としよかん}図書館の人、^{ひと}地域に^{ちいき}昔から^{むかし}住んでいる人、

^{しみん}市民センターの^{せんせい}先生などに^き聞きましょう。

それから、ネットでさがして、^{しつもん}質問できるものもあります。



隠れているリスクを見つけ出す！

自分たちの地域の成り立ちを知る、隠れているもの探し

（地域知をためることは、自然災害から身を守る第一歩）



植物名：パンジー（スミレ科）

花言葉：私を思ってください

(解説)

防災は、幅が広くて多くの専門領域を総合しないと、理解も研究もできないことから、様々な専門家がいます。いま、災害に遭遇する前の事前の備えとして、地域を知るといふことでいえば、一番に頼りになるのは、地形や地質を知っている人であり、災害の経験のある地域の先輩の方々です。そして、様々な情報を分析して整理される先生方ということになります。防災は、自助、共助、公助があるといわれていて、最も大事なことは自助です。自助なんて、せいぜい防災グッズを備えたり、耐震化をする程度と思われませんが、事前に備えておく、ということでは大変重要なもので、何かあったら何とかするというのが一番危険なことです。

地域を知るといふことは、単なる物知りになったり、地域検定の達人になることではありません。地域の知識や知恵を活かすということで、最も基本的で、みんなが共有しておくべきことです。そして、リスクを少しでも小さくできることがあれば、住民や行政と一緒に安全な地域にしておくことが、次世代への遺産につながります。

7. マイマップ(じぶんのちず)をつくろう

じぶん あし め す み
自分の足と目で、住んでいるところを見る。

した み よこ み うえ み
下見て、横見て、上を見てたしかめる。

なに き なに み
何か気になることが見つかりましたか。

なに おも
何かあったらこわいなと思ったことは？

やく た やく た ばしょ し
役に立つもの、役に立つ場所やものを知りましょう。



その気になってみると、みえてくる！



植物名：サルビヤ（シソ科）

夏の花壇の定番、色はアカ、シロ、ムラサキなど多色。シソ科なので、茎は四角形、葉は輪生のものが多いような気がする。この仲間は、日本で100種近くある。花の下部は筒状で、上部は上下に裂けた唇のような形状をしている。

花言葉：燃ゆる思い

(解説)

マイマップは、文字通り自分や家族のための情報を記した地図です。いつも歩いている通学路でも、災害があったらという目で見ると、いつもと違うものが見えてきます。危険なものほかに、役に立つ、助けになるものもあるはず。そういうものを確認するということは、災害はいつ来るかわからない、ということでの臨戦意識をもって、行動できるようにするためです。水害や地震があつて、思いがけない被害にあつた例はたくさんあります。事故があつてはじめて気づく前に、いままでの経験を生かして事前に知っておくことで、避けられることや改善することもできます。行政がすべてをカバーすることは不可能ですし、より地域の防災力を上げてくためには、地域の人の関心と気づきが一番です。

マイマップは、「自分と家族のための手作り防災マップ」ということで、以下の利点があります。

- ①マイマップは自然災害から身を守る身近な情報箱です。
- ②地域の防災マップと一緒に使うと効果が倍増します。
- ③いつでもどこでも自然災害に対する、備えが自然と身に付きます。
- ④避難経路がわかるので、自然災害発生にも余裕と自信がわきます。
- ⑤自分でつくれるので身に付きます。
- ⑥通学・通勤など、自宅以外の場所にも応用が利きます。
- ⑦地域住民の自然災害の記憶の風化と、ボケ防止に役立ちます。
- ⑧ネットワークが広がり、いろいろな視点でマイマップが作れます。
- ⑨復旧ボランティアの方の、心強いガイド役になります。
- ⑩わが町再発見になります。

8. マイマップ(じぶんのちず)のつくり方

どんな災害が昔あったのかを知る。

自分たちの地域ができたれきしを学習する。

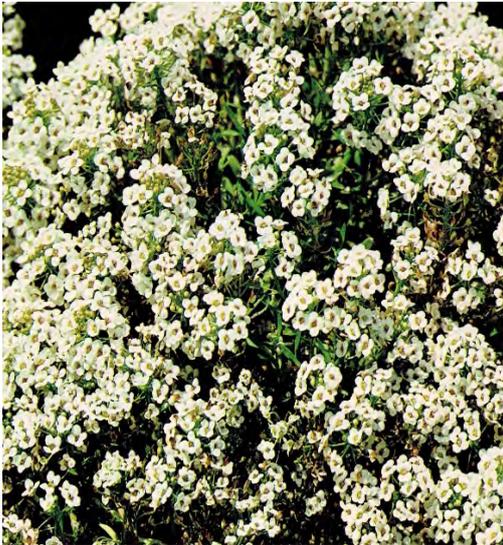
まちをあるいて、観察しよう。

みたこと、かんじたことをメモ、写真で記ろくしよう。

ほかの人と話し合いながら地図にあらわそう。

マイマップ(じぶんの地図)は、そのときのだいな記ろく、記おくのメモちょう

安心は、“見る”、“聞く”、“知る”から



植物名：スイートアリッサム

(アブラナ科)

多年草、多色、少々甘い香りが特徴。

地中海北岸～西アジアが原産地

花言葉：価値あるもの

(解説)

マップ、地図というと、なんか難しいと思われるかもしれませんが、地図は身の回りにたくさんあります。例えば道案内図(アクセスマップといわれることが多い)が、一目瞭然で洒落たイラストになっているものなどがあります。あるいは、国土地理院発行の〇〇〇分の一というような地形図を思い浮かべられる方もいるかもしれません。

ここで対象としているところのマイマップという地図は、縮尺が明示されている白地図の上に、自分で確認したこと、災害時に危険なもの、役に立つものを記入するというもので、いわば自分のための災害時のお助けマップというものです。したがって、きれいなものでなくてもよいし、あとから写真や書入れができるものの方が良いと思います。自分で確認して、書くという作業によって、地域への関心も高まるし、考え展開するということが格段にアップします。防災は、何ととっても関心を持つことが一番で、少なくとも想定外をなくすことで、防災への気持ちが強くなると思います。

9. あぶないところ、ものはなに

つうがく とちゅう
通学の途中に、あぶないところ、こわいところがありますか。

なに
何かあったらおちてきそう、たおれそう、傾かたむいている・・・

あめ ふ
雨が降ったら、ぬかるみや水みずがたまるところがありますか。

どうろ だんさ
道路に段差やいつも水みずが出ているところなどありますか。

事前の確認、想定で、適正な判断と行動ができる。



植物名：シレネ・ベンデユラ

(ナデシコ科)

地中海沿岸原産地、こんもりした形が人気。

花言葉：恋の落とし穴に注意

(解説)

いつもは、何気なく暮らし、通学、通勤などを行っているわが町ではありますが、災害という目で見直してみると、様々なものが見えてきます。また、子供と大人でも見る目が異なります。メディアの報道で、ブロック塀や屋根からの瓦が飛び出して、死傷者が出たということは聞きますが、自分の地域に同じようなことが起こるリスクの存在まで、気にする人はほとんどいません。そんな対岸の火事を心配しては、暮らせないというのが本音でしょう。

しかし、自然災害は無慈悲で、いつどんな規模のものが発生するかはわかりませんし、弱みを徹底的に攻めてきます。日本列島に住む限りは、何らかの自然災害から逃れる手立てはありません。したがって、住んでいる地域に限っても、どんなリスクがあるのかを確認し、自分で地域を確認しておくことは非常に大事になります。一例ですが、学校の通学路は主として交通安全の視点で設定されていることが多いのですが、実は地震等で危険となるブロック塀が続く道路が、指定されていたというような例もあります。マイマップを作り、みんなを持ち寄って、より安全で安心な対応を考えていく必要があります。ことが起きてからでは遅すぎます。

10. ひなんじょはどこにあるの

ちいきには、^{なに}何かあったらひなんするところがありますか。

どこを^{とお}通って行くのが^{あんぜん}安全ですか。

ひなんじょは^{あんぜん}安全なところにありますか。

行く^いとちゅうに、どんなところがありますか。

避難するときの決まり



植物名：ガマズミ（スイカズラ科）

山で普通にみられる落葉低木、初夏に枝先に上を見るように半球状に白い花がつく。やや平たい卵型の葉で、葉脈が細かいのが特徴。

実は甘っぱくて小鳥が好むが、果実酒にしても美味で、ルビー色で珍重される。秋の紅葉も楽しめる。

花言葉：無視したら、私、死にます

(解説)

指定されている避難所や場所は、よく看板で見かけます。多くの場合、公園、学校、市民センターというところになります。収容の規模や公共性ということからだとは思いますが、その避難箇所が防災上の点で安全が保障されているわけではありません。標高が数mのところにある津波防災拠点、沢の出口や裏手ががけや急傾斜地の市民センター、谷埋め盛土上の公民館や児童館というものもあります。

自然災害は、その場所で起きる種類が違ふし、被害も多様ですので、何かあれば、避難所だけが万能ではありません。例えば水害、浸水というようなときには、危険なところを避難するよりは自宅の2階以上へ避難して救助を待つという方法もあります。

避難場所については、地域でその安全性について再確認しておく必要があります。

また、いま多くの避難所では防災倉庫とかその他の備品が整備されているところが多いと思います。そのような備品についても一カ所に集中して保管することがよいのか、分散して備えるのがよいのか、地域の事情や利用スタイルを勘案して対応すべきだと思います。

11. やくにたちそうなものはなに いつものぞなえ

ちっちゃなライトと笛はやくにたつ。

何かあったら伝えるたり、連絡する人は？

危ないところにはちかずかない。

へんだとおもったら、近くの大人に連絡しよう。



備えは、行動をイメージして最小限



植物名：グラジオラス（アヤメ科グラジオラス属）

明治時代に輸入され、トウショウブとかオランダショウブといわれていた。最近は、花形も色豊富で、花の数も増している。根は湿布薬に利用されている。

花言葉：用意周到

(解説)

いまは、それぞれの家ごとに防災グッズのようなものを備えていることが多いと思いますが、これも定期的に点検や交換をしていかないと、いざというときに役に立たないということがありますので、注意が必要になります。

ところで、地域の外を見てみますと、意外と災害の時に頼りになる、しなければならぬものが多いです。これも、ぜひ確認しておくことが必要です。マップ作りの中ではお宝発見ということにもなります。

例えば、病院（クリニック）、薬局、駐車場、空き地、コンビニ、神社の境内、福祉施設、一時避難所、自動販売機などで、そこに水道やトイレ設備があったりすると有り難いと思います。実際に、東日本大震災の時には、近くのラーメン屋さんにある寸胴鍋の提供で、温かい炊き出しがすぐに行われたということや、町内の工務店にある資材が、大変役に立ったということもありました。町内には、他にも人的資源がたくさんあります、埋もれているだけで、発掘してバンクを作っておくと良いと思いますし、なんといっても地域が仲良く暮らしている、ということが大きな支援の輪になるということだと思います。

12. じぶんの地図をそだててみよう

みる、か^かく、つたえる。

いつもとかわっていたら、地^ち図^ずにかいておこう。

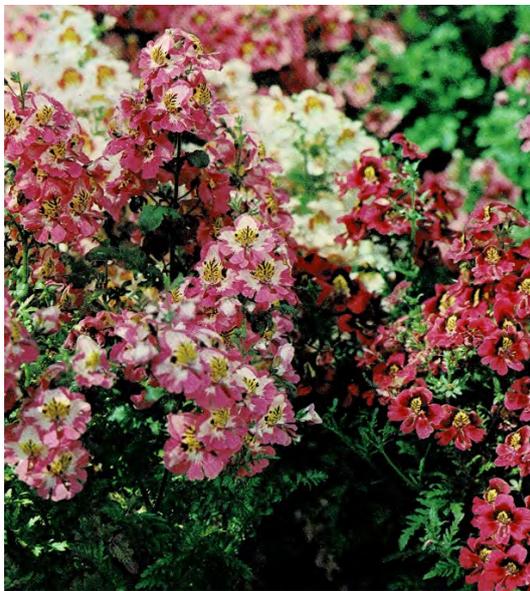
きいたことをメモしておこう。

か^かぞく^{ぞく}やとも^{とも}だち^{だち}につた^{つた}えておこう。

みかけたことやきづいたことをか^かいておこう。

見る、確認で新たな知識を積み重ねる

(情報の取り込み、更新することで、使いやすさ、内容の充実が
図れる。発見することでの関心度がアップ)



植物名：シサンサス (ナス科シザン
サス属)

胡蝶草ともいわれ、チョウが舞っているよ
うに、派手な花形、色と多様。チリ原産。

花言葉：いつまでも一緒に

(解説)

自分たちが、家族のために作ったマイマップは、作った後も新しい情報を取り入れて、改訂していくとよいと思います。転居して空き地になったとか、新しい店ができた、とかも書き入れておくともよいと思います。それから、道路工事をしていたら、何のためなのかを書き入れておくことや、毎年補修しているようなところは、嫌らしい原因があるのかもしれない。また、過去の災害のことや、昔の様子を聞いたら、それも書き込んでおくともよい情報になります。意外と昔のことに詳しい、地域検定おじさんがどこにでもいます。

地域の防災力を確実にするということは、個人の暗黙知（頭で知っているもの、長年の知恵や勘）を形式知（誰にでもわかるようになっている知識）にすることでもあり、様々な立場や視点から関心をもって、情報を共有するということになります。ある意味で、地域で防災文化を醸成するということが大事で、その切り口としてもマイマップは、大事なものになると思っています。そして、マイマップづくりは、その時作ってしまっただけで終わりではなく、より良い情報を入れながら充実させていく必要があります。

13. さいかいがあつたら、**正しく行動する**

あわてないでおちついてきく。

じょうほうを、りかいして、はやめに**行動**する。

ひなんじょへは、**明**るいうちにいくようにする。

ふだんから**必要**なものを、みじかなところにまとめておく。

災害があつたら、自分勝手な判断や希望で行動しない。

(落ち着いて、当たり前のことができるように)



植物名:ブルー・ベル (キジカクシ科
ツルボ亜科ヒアシントイデス属)
球根性多年草、北西ヨーロッパ原産
一部をみると、ヒアシンスにも似ているよ
うな気もする。

花言葉: いつ、どんな時も

(解説)

災害時の情報は、当然ながら正しく、行動に結びつくもので、わかりやすくなければなりません。しかしながら、2018年の西日本豪雨災害の時には、情報が錯綜し、うまく伝達されずに避難というか、情報難民が出てしまいました。このようなことを受けて、2019年5月に大雨情報をわかりやすい表現で伝達するということが気象庁が発表しました。いまは情報技術が普及して、様々な情報が飛び交いますので、情報判断することをしないと、とんでもないことが起きてしまいます。そのためには、そのような判断が可能な基礎力を持つことが大切になっており、ある自治体では、情報の一元化と早めの行動を促す取り組みをしています。そうすると、確かに、オオカミ少年的になるかもしれず負担もあるかもしれませんが、過度的な対応としては満足に近いのかもしれませんが、実際には、職員や地域の人負担も集中することもなく、救助力が分散できるというような利点も報告されています。とは言っても、自治体の規模や特性もありますので、全てを水平展開とはいかないのは当然です。

いずれにしても、学校での防災教育などを行って地域への関心、地域知を醸成していく、ということは防災を考える上での基本です。

14. だいじょうぶは、だいじょうぶでない

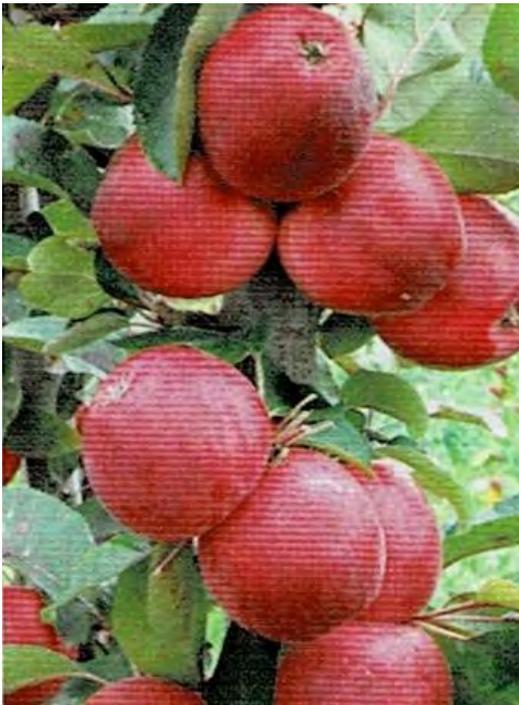
^{じぶん}自分だけは、だいじょうぶだとおもわない。

^ひ日ごろから、^{ひなん}避難について^{かぞく}家族の^{ひと}人と^{はなしあ}話し合っておく。

^{ゆうき}勇気をもって、^{はや}早めに^{こうどう}行動する。

正常化の偏見が大きな二次災害や被害を呼ぶ

**(災害対応は、ゼロからの創意工夫や自己判断ではない。経験を
知り、知識を重ねることが大切である。)**



植物名：リンゴ（バラ科）

実は誰でも知っているが、意外と花を見ることは少ない。春の桜が終わると、白色から淡紅色の花がかたまりで咲く。遠望すると、柔らかい布が木にかぶっているようにも見える。多くの物語に登場するが、アダムとイヴ、弓のウイリアム・テル、万有引力、白雪姫など多数。最近では地球温暖化で生育範囲が北上気味。

花言葉：誘惑

(解説)

正常性バイアスという言葉が、東日本大震災の津波被害を説明するときに、広く知られたことばですが、これ自体はその前にもありました。実際に私たちも、経験の中でよく理解できる現象です。異常事態や避難が迫っている状況でも、その状態を認めたくない、できるだけ平静を保ち、周りも避難しないからと、横目で見ながら大丈夫だという心理状態のことです。周りを見て行動を起こすということは、日常的にもある同調心理というか、わけなく安心感を得ようとするものだと思います。非常スイッチのONとOFFがあいまいになっているということかもしれません。

今回の気象庁による大雨情報の警戒レベルは切迫度がわかりやすく、住民の早期避難つながるもので、このバイアスからの解放につながるかもしれないと期待されています。記録的な豪雨がいまや日常化していることや、大規模地震が迫っていることを考えると、いつでも躊躇することなく、非常スイッチのボタンをONできるように、しておくことが大事であると思います。

15. たすけよう、そのまえにたすかろう

まずは、自分が助かることに全力を出そう。

ふだんできないことは、いざというときにもできない。

自分がたすかれば、近くの人、友達を助けることができる。

たすける気持ち、てつだう気持ちがかんしゃされる。

できることは自分で備えること。助かって、助けることができる。

(自助、共助、公助が互助すること)



植物名：エノキ（ニレ科）

本州以南に多い、花は春に咲くが目立たない。果実はだいたい色で小鳥が好む。

落葉高木で、夏に木陰を作るということで、“榎”という字が当てられている。道路脇や神社の境内でふつうにみられる。

花言葉：力を合わせて

(解説)

いまや、社会は少子・高齢化が進み、社会自体が“縮み”に入っていることは、様々なところに影響が出始めています。その最たるものは人材不足ということで、医療の現場でも行政の執行機関でも同様です。

昨今は自然災害の発生頻度も規模も大きくなってきていて、防災にかかわる人材が現場でも、研究機関でも不足が目立ってきています。よく言われるように、消防団員が不足していて、救助活動にも苦勞しているといわれています。すべてについて、情報技術で完了させることは無理です。そうすると、できるだけ自助や共助のところを確実にしていって、公助の対象を低減するということが必要になります。

そういう意味でも、早い時期からの防災教育や、地域での防災力の向上、政策的な土地利用規制といったことで、対応することが必須になってきています。わたしたちも、行政の負担を少なくする意味以上に、自分たちの命は自分たちで何とかする、という意識が必要となっており、とりあえずは地域の災害リスクを洗い出して、可能な限りの改善や修正を行っていく、という自治活動が広がることを願っています。